

# 「東北メディカル・メガバンク」計画の主な実施内容

## 第1段階：被災地を対象としたコホート調査の実施と15万人規模のバイオバンクの構築

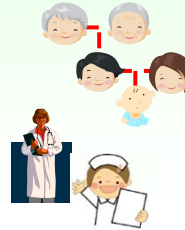
### ◆地域住民コホート(8万人規模)

- ・被災地沿岸部の住民を中心に、健康診断を実施し、結果を回付することで健康管理に貢献。
- ・生体試料を収集するとともに、定期的に健診を実施し、健康情報、診療情報等を収集。適切な時期に遺伝子解析の同意取得。



### ◆地域医療支援

- ・被災地に医師、CRC等の医療関係人材を派遣。コホート調査の中心的役割を担うとともに、地域医療現場での診療等、地域医療の支援も実施。



### ◆3世代コホート(7万人規模)

- ・宮城県全域を対象に、出生児、親、祖父母の3世代のコホート調査を実施。
- ・生体試料を収集するとともに、定期的に健診を実施し、健康情報、診療情報等を収集。適切な時期に遺伝子解析の同意取得。



### ◆バイオバンクの構築、解析研究

- ・地域住民コホート、3世代コホートで収集された生体試料、健康情報、診療情報等を東北大学で収集、保存し、バイオバンクを構築。
- ・生体試料からゲノム情報等を収集するとともに、健康情報、診療情報等と併せて解析を実施。
- ・他のバイオバンクと連携体制を構築し、ゲノム解析等を実施。



## 第2段階：バイオバンクを活用した次世代医療を実現するための研究の推進

### ◆個別化医療、創薬の実現に向けた研究の推進

- ・バイオバンクに収集された生体試料、健康情報、診療情報等を用いて、我が国の他のバイオバンクとも連携しながら、個別化医療等の次世代医療の実現を目指す研究開発を実施し、将来的に得られる成果を被災地の住民に還元することを目指す。
- ・また、得られた成果を活用した創薬等の研究開発を推進。



### ◆バイオバンクの更なる充実

- ・コホート研究における追跡調査を定期的実施し、健康情報、診療情報等を引き続き取得。

### ◆成果の共有

- ・研究計画等の審査を行った上で、他機関へ生体試料を提供し、ゲノム解析等で得られた成果も公開。